



【イントロダクション】 生成AI活用への招待

2024年4月19日
金融高度化セミナー「生成AI 基礎と実装」
日本銀行 金融機構局 金融高度化センター
岡 俊太郎

目 次

- 1 .生成AIとは何か
- 2 .わが国金融業界における生成AIの取り組み状況
- 3 .生成AI活用への招待

1.生成AIとは何か

(1) 生成AIの登場

- 従来より、金融機関は、業務効率化やサービスの高度化を図っていくために情報技術を活用してきた
- 近年の技術革新により、AIによる、膨大なデータを活用した高精度の予測判断が可能となり、金融機関もAIを業務に採り入れてきている
 - 金融高度化センターでは、2014年以降、IT・AI活用に関するセミナー、ワークショップを随時開催
- さらに最近では、高度な言語処理能力等を備え、テキスト、画像、音声、動画、プログラミングコード等のコンテンツの生成が行える「生成AI」の技術が発達し、注目を集めている

(2) 生成AIの可能性①

- 生成AIは、既に検索エンジンに組み込まれ始めるなど一般向けのサービスが開始されているほか、国内外の企業での活用事例がみられるようになってきている
- 将来的に、生成AIは、例えば、以下のような場面での活用を通じて、ホワイトカラーの従業員等の生産性向上や、企業等全体としての業務効率化・サービス高度化に寄与できる可能性
 - ✓ 文書の起案・校正、要約、翻訳
 - ✓ システム開発支援（コーディングなど）
 - ✓ 広告制作の支援（画像等の自動生成）
 - ✓ アイデア出し

(2) 生成AIの可能性②

- なお、生成AIが既に一般向けのサービスとして提供されている状況等を踏まえると、業務に生成AIをとり入れ、仕事のしやすい環境を提供することは、生産性向上等だけでなく、ワーク・エンゲージメント向上（人材の繫留・確保）にもつながる可能性

(3) 生成AIのリスク

- 一方、ハルシネーション（幻覚）の問題、著作権や倫理上の観点、情報漏洩リスクなど、生成AIに固有の課題も存在
- 生成AIを本格的に活用していくためには、生成AIによるアウトプットを社内で適切に検証する仕組みや、適切な情報管理のもとでの社内データの活用が重要になってくる
- そのため、こうしたリスクへの制御（AIガバナンス）が必要不可欠になってきている



2.わが国金融業界における 生成AIの取り組み状況

(1) わが国金融機関にとっての生成AI活用の可能性

- 現状、金融機関にとって、情報の集約・加工や、それに基づく文書の作成等の作業は、業態・規模を問わず相応の事務量となっている
- このため、生成AIは、先行き、大手金融機関、地域金融機関のいずれにとっても、生産性向上のための有効なツールとなる可能性

(2) わが国金融機関の生成AI活用の広がり①

- 実際、各金融機関のプレスリリース資料等によると、大手金融機関を中心に、次のようなユースケースについて、検討や実証実験が進み、一部では実装段階に入りつつある
 - ✓ 資料の起案、要約作業
 - ✓ 英文資料の翻訳、英文での情報収集のサポート
 - ✓ プログラミングの素案作成
 - ✓ 外部からの照会に対する回答の起案作業
 - ✓ 各種規程やマニュアル等の社内情報の照会

(2) わが国金融機関の生成AI活用の広がり②

- AIガバナンスのあり方に関しても、大手金融機関では、AIガバナンスの方針策定や体制整備が図られつつある
- ただ、現状、生成AIの活用は緒についたばかりの段階にあり、業界全体としてみると、実装化やAIガバナンスの整備等を進めている先はなお少数

The background features a complex geometric design with several thin blue lines. A horizontal line crosses the page. A vertical line is positioned to the left of the center. A large circle is located in the upper right quadrant. Several other curved lines intersect and sweep across the page, creating a dynamic, abstract composition.

3.生成AI活用への招待

(1) 今般のセミナーの狙い

- 金融業界全体として、生産性の向上やワーク・エンゲージメント向上を図っていくため、まだ活用が緒についたばかりの新技术である生成AIについて、主に技術面の有識者からの説明を通じて、活用可能性や、その際に必要となるリスクについての知識やAIガバナンス整備等の論点について、考える契機を設けたい、というのが本セミナーの狙い

(2) 1日目の講演の概要

- 1日目では、生成AIとは何か、どのように発展してきたのか、金融機関のどのような業務に活用しうるか、また、生成AI利用に伴うリスクはどのように制御していくべきか、といった点についてお話し頂く

| 講師 | 講演内容／講演タイトル |
|--|---|
| 日本マイクロソフト株式会社 業務執行役員 NTO (ナショナルテクノロジーオフィサー) 田丸 健三郎 氏 | 【第1講・テーマ：AI技術の進展】 AI技術の発展 |
| 株式会社NTTデータ 金融イノベーション本部 ビジネスデザイン室 イノベーションリーダーシップ統括部長 山本 英生 氏 | 【第2講・テーマ：金融機関への生成AI適用と留意点】 金融機関における生成AIの活用とその課題 |
| 一般社団法人金融データ活用推進協会 (FDUA) 生成AIワーキンググループ長代行 日本生命保険相互会社 デジタル推進室 上席専門課長 阪本 雅義 氏 | 【第3講・テーマ：生成AIのリスクとその対応】 FDUA生成AIガイドラインのご紹介～金融機関におけるイノベティブで健全な生成AI活用に向けて～ |

(3) 2日目の講演の概要

- 2日目では、今後、生成AIを業務にとり入れていくときに生じるであろう検討課題として、生成AIと人間の役割分担、生成AIの実装に向けた進め方、自社データを活用するためのポイントについてご説明頂くとともに、生成AIに関する取組みを始めている金融機関から、取組状況や考え方等についてお話し頂く

| 講師 | 講演内容／講演タイトル |
|--|---|
| アクセンチュア株式会社 執行役員 データ&AIグループ日本統括 保科学世氏 | 【第4講・テーマ：生成AIの未来像と人間の役割】 生成AIが社会にもたらす衝撃と未来 |
| アマゾンウェブサービスジャパン合同会社 金融事業開発本部長 飯田 哲夫氏 AI/ML事業本部 プリンシパル事業開発 マネジャ 黒川 亮氏 | 【第5講・テーマ：生成AIの実装に向けた課題】 生成AIの実装と本格活用へ向けた検討ポイント |
| グーグル・クラウド・ジャパン合同会社 執行役員 フィナンシャルサービス事業本部長 綱田 和功氏 | 【第6講・テーマ：生成AIにおける自社データの活用】 生成AIにおける自社データの活用 |
| 住信SBIネット銀行株式会社 データサイエンス部長 瓦田 宗大氏 | 【第7講・テーマ：金融機関における取組み】 住信SBIネット銀行におけるAI活用事例 |

本資料に関する照会先

日本銀行 金融機構局 金融高度化センター 企画役

岡 俊太郎 電話 03-3277-1476
shuntarou.oka@boj.or.jp

- 本資料の内容や意見は、執筆者個人に属し、日本銀行の公式見解を示すものではありません。
- 本資料の内容について、商用目的での転載・複製を行う場合は予め日本銀行金融機構局金融高度化センターまで、ご相談ください。転載・複製を行う場合は、出所を明記してください。
- 本資料に掲載されている情報の正確性については万全を期しておりますが、日本銀行は、利用者が本資料の情報をを用いて行う一切の行為について、何ら責任を負うものではありません。